

神戸市の注目すべき双翅目および膜翅目の記録

吉田 浩史¹⁾・八木 剛²⁾

神戸市では、2009 年度に神戸市版レッドリストのとりまとめが行われ、双翅目では 6 種、膜翅目では 14 種が選定された（神戸市, 2010）。しかし、一部の分類群を除きこれまでの情報の蓄積が少なかったため、重要とされる種の記録も非常に少ない状態であった。

今回、筆者の一人吉田の所持する標本や、大阪市立自然史博物館の収蔵標本の調査を行い、神戸市内において少ないと思われる双翅目、膜翅目の記録を取りまとめた。

なお、今回のリストは、現存の兵庫県版及び神戸市版のレッドリストの補足資料及び今後の改定の参考資料とするものであるが、挙げられた種は必ずしも重要種とは限らない。

標本データについては、兵庫県神戸市までは省略し、区名から表記した。標本データ末尾の (OMNH) は、大阪市立自然史博物館収蔵標本を示す。

また、解説文中において、レッドデータブックを RDB, レッドデータを RD, レッドリストを RL と略記する。

謝辞

大阪市立自然史博物館の松本吏樹郎学芸員には、収蔵標本及び文献の閲覧時にお世話になった。ここにお礼申し上げる。



写真 1 ルリハナアブ (吉田撮影)。

目録

Diptera 双翅目

Syrphidae ハナアブ科

Kertesziomyia viridis (Coquillett, 1898)

ルリハナアブ

北区道場町生野, 150m, 1 ♀ (写真 1), 2013. IX 11, 吉田浩史.

双翅目については、吉田・八木 (2012) で報告しているが、新たに神戸市内から記録された種があるため、ここに報告する。生態等については、今回は割愛する。

Hymenoptera 膜翅目

Braconidae コマユバチ科

Euurobracon yokahamae (Dalla Torre, 1898)

ウマノオバチ

北区道場町生野, 150m, 1 ♀ (写真 2, 写真記録のみ), 2013.

IV. 13, 八木剛.

環境省の第 4 次 RL (環境省, 2012) において準絶滅危惧に、兵庫県版 RL (兵庫県, 2012) および神戸市 RD (神戸市, 2010) において C ランクに選定されている。



写真 2 ウマノオバチ (八木撮影)。

¹⁾ Hiroshi YOSHIDA 神戸市東灘区; ²⁾ Tsuyoshi YAGI 兵庫県立人と自然の博物館

近畿地方では他に, 大阪府 RL (大阪府, 2014) において絶滅危惧 II 類に, 滋賀県 RDB (滋賀県, 2011) において希少種に, 和歌山県 RDB (和歌山県, 2012) において絶滅危惧 I 類に, 三重県 RDB (三重県, 2015) において絶滅危惧 IB 類に選定されている。

国内では本州, 四国, 九州に分布する。産卵管がきわめて長いのが特徴で, 体長の約 6 倍以上。シロスジカミキリの幼虫に寄生する (前藤, 2008)。

Pompilidae クモバチ科

Paracyphononyx alienus (Smith, 1879)

アオスジクモバチ

北区山田町藍那, 250m, 1 ♀, 2001. VIII. 25, 吉田浩史。

環境省の第 4 次 RL (環境省, 2012) において情報不足に選定されている。近畿地方では他に, 京都府 RDB (京都府, 2015) において準絶滅危惧種に選定されている。

国内では本州, 四国, 九州, 種子島, 海外では朝鮮半島, 台湾に分布する (清水, 2008)。

クモバチ科は従来ベッコウバチ科と呼ばれており, 本種にもアオスジベッコウ, ヤマトアオスジベッコウの別名がある。

Tachypompilus analis (Fabricius, 1781)

ツマアカクモバチ

垂水区西舞子海岸, 0m, 1 ♀, 2006. IX. 19, 吉田浩史。

近畿地方では, 三重県 RDB の 2005 年版 (三重県, 2006) においては準絶滅危惧に選定されていたが, 後に 2015 年版 (三重県, 2015) において今後生息地が増える可能性があるとして低懸念とされた。

国内では本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布する。アシダカグモを狩った後, 乾いた土にすり鉢状の巣を掘って, これを埋める (清水, 2008)。別名ツマアカベッコウ, ツマアカコブベッコウ。

南方系の種で, 近年分布を北に伸ばしている (三重県, 2006) とされる。

Formicidae アリ科

Polyrhachis lamellidens Smith, 1874

トゲアリ

北区山田町藍那, 250m, 1 ex., 2002. V. 26, 吉田浩史 (吉田, 2002); 北区道場町生野, 150m, 1 ex., 2013. IX. 13, 吉田浩史。

環境省の第 4 次 RL (環境省, 2012) において絶滅危惧 II 類に選定されている。

国内では本州, 四国, 九州, 屋久島に分布する。女王がクロオオアリ, ムネアカオオアリ等の巢中に侵入し, その巣を奪う一時的社会寄生を行う。立木のうろの中, 特に根際付近の空洞によく営巣する (寺山ら, 2014)。

Polyrhachis moesta Emery, 1887

チクシトゲアリ

北区山田町藍那, 250m, 1 ex., 2009. III. 19, 吉田浩史。

国内では関東以南の本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布する。樹上営巣性で, 通常枯れ枝に営巣する (寺山ら, 2014)。

同属で重要種とされるトゲアリよりも, 分布が南方寄り兵庫県の記録例も少ないと思われる。

Vespidae スズメバチ科

Eumeninae ドロバチ亜科

Anterhynchium melanopterum Sk. Yamane, 1981

ハグロフタオビドロバチ

北区坂本 (吉田・松本, 2002); 北区道場町生野, 150m, 1 ♂, 2002. IX. 7, 吉田浩史。

本州, 四国, 九州及び対馬に分布する (福井県, 2002)。本州の既知産地は栃木, 茨城, 東京, 新潟, 福井, 広島, 山口 (福井県, 2002), 京都, 大阪, 兵庫, 和歌山 (吉田・松本, 2002), 岐阜 (田島・大草, 2007)。

Vespinae スズメバチ亜科

Vespa crabro Linnaeus, 1758

モンズズメバチ

北区山田町藍那, 250m, 1 ex., 1999. IX. 12, 吉田浩史 (吉田, 2002)。

環境省の第 4 次 RL (環境省, 2012) において情報不足に選定されている。近畿地方では他に, 滋賀県 (滋賀県, 2011) において分布上重要種に, 三重県 RDB (三重県, 2015) において準絶滅危惧に選定されている。

国内では北海道, 本州, 四国, 九州に分布する (山根, 2008)。木の洞や屋根裏などに巣を作る。大型の昆虫を餌とし, 特にセミ類を好む。近年, 北海道以外で減少している (滋賀県, 2011; 三重県, 2015)。

Ampulicidae セナガアナバチ科

Ampulex dissector (Thunberg, 1822)

サトセナガアナバチ

摩耶山, 1 ♀, 1957. VI. 22, 小泉雅俊 (OMNH)。

神戸市 RD (神戸市, 2010) において D ランクに選定されている。

国内では本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島に, 海外では朝鮮半島, 中国, 台湾に分布する。人為的移入種と考えられている (寺山・田塾, 2006)。人家付近に飛来し, クロゴキブリ, ワモンゴキブリ等の人家性ゴキブリの幼虫を狩る。住宅建築様式の変化や餌のゴキブリの減少に伴い, 本種もほとんど見られなくなった (山口県, 2002)。別名セナガアナバチ。

Sphecidae アナバチ科

Sceliphron deform nipponicum Tsuneki, 1972

ニッポンモンキジガバチ

北区山田町藍那, 250m, 1 ♀, 2006. VIII. 20, 吉田浩史.

周辺府県では, 岡山県 RDB (岡山県, 2009) において準絶滅危惧に選定されている。

本土亜種は北海道, 本州, 四国, 九州に分布する。南西諸島には原名亜種が分布するが, 千葉県及びその周辺でも得られており, 人為的移入と考えられている (寺山・田塾, 2006)。建物内の薄暗いところに好んで営巣する。ハエトリグモ類を狩る (山根ら, 1999)。別名モンキジガバチ。

Crabronidae ギングチバチ科

Bembicinae ハナダカバチ亜科

Alysson cameroni Yasumatsu et Masuda, 1933

ニッポンツヤアナバチ

北区道場町生野, 150m, 1 ♂ 1 ♀, 2002. IX. 7, 吉田浩史.

京都府 RDB (京都府, 2015) において準絶滅危惧種に選定されている。

北海道, 本州, 九州に分布する (寺山, 2006)。ドロバチモドキ類の中でも原始的とされる。地中に営巣し, ヨコバイ類を狩る (京都府, 2015)。ニッポンツヤバチ, ツヤドロバチ, ツヤドロバチモドキ等の別名がある。

ギングチバチ亜科 Crabroninae

Larra carbonaria (Smith, 1858)

クロケラトリ

北区山田町藍那 (吉田, 2002)。

国内では北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 南西諸島, 海外では朝鮮半島, 台湾, フィリピン, マレーシア, インドネシアなどに分布する。ケラを狩る。本種を含む本属の種は, 巣を作らず, かつ獲物の麻酔も一時的なものになる (寺山, 2008)。別名クロケラトリバチ, クロトガリアナバチ。

京都府版 RDB (京都府, 2015) において, アカオビケラトリバチ (京都府版準絶滅危惧種) の項に「ケラにとって好適な湿地的環境が失われており, 近縁のクロケラトリバチも激減している」とされている。

Apidae ミツバチ科

Halictinae コハナバチ亜科

Nomia incerta Gribodo, 1894

アオスジハナバチ

北区道場町生野, 150m, 1 ♀, 2002. IX. 7, 吉田浩史.

京都府 RDB ではかつて, 近年個体数が激減しているとして準絶滅危惧種に選定されていた (京都府, 2002) が, 2015 年版では府下に広く分布が確認され, 個体数

も少なくないとして対象外とされた (京都府, 2015)。

国内では本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島に, 海外では中国, 台湾, 朝鮮半島, インドネシア, ネパール, インドに分布する (多田内・村尾, 2014)。成虫は夏季から秋季にかけ出現し (多田内・村尾, 2014), ハギ類を好んで訪花する (山根ら, 1999)。別名アオスジコハナバチ。

Megachilinae ハキリバチ亜科

Megachile kobensis Cockerell, 1918

キヌゲハキリバチ

須磨区一ノ谷町, 須磨海岸, 1m, 1 ♀, 2011. VIII. 8, 吉田浩史.

神戸市 RD (神戸市, 2010) において要調査に選定されている。

本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島, 種子島に分布し, 成虫は 5 ~ 9 月に出現する (多田内・村尾, 2014)。典型的な海浜性のハナバチ。広食性種であるが, ハマゴウのスペシャリスト的な送粉者である。砂地に深さ 2 ~ 7cm の緩やかに傾斜した単坑を掘り, その先端に 1 ~ 3 個の育房を直列に配置する。育房は葉片で作製される (島根県, 2014)。別名コウベキヌゲハキリバチ。

原記載は未見であるが, 学名から神戸周辺が模式産地と推測される。

須磨海岸では, 2011 年に少数であるがハマゴウの花を訪花中の個体が確認された。

Osmia orientalis Benoist, 1929

マイマイツツハナバチ

兵庫区鳥原町, 100m, 1 ♂, 2000. IV. 8, 吉田浩史; 北区山田町藍那, 250m, 1 ♂, 2000. IV. 23, 吉田浩史; 同, 1 ♀, 2001. IV. 7, 吉田浩史.

環境省の第 4 次 RL (環境省, 2012) において情報不足に選定されている。近畿地方では他に, 京都府 RDB (京都府, 2015) において準絶滅危惧種に, 三重県 RDB (三重県, 2015) において絶滅危惧 IB 類に選定されている。

本州, 四国, 九州および極東ロシアに分布し, 成虫は 4 ~ 5 月に出現する (多田内・村尾, 2014)。春にカタツムリの空殻を利用して営巣する。地上でカタツムリの殻を, 入口を下に向け, 渦巻きを垂直に置き, 1 つの殻に 5 ~ 8 育房を, ミヤコグサの花弁やキク科・バラ科植物の葉のパルプで仕切って作り, 花粉を搬入する。訪花植物はゲンゲ, キランソウ, サギゴケ等 (京都府, 2015)。

Apinae ミツバチ亜科

Amegilla florea (Smith, 1879)

スジボソフトハナバチ

北区山田町藍那, 250m, 1 ♀, 1997. VIII. 17, 吉田浩史; 同, 1

♀, 1999. VIII. 22, 吉田浩史; 同, 1 ♀, 2000. VIII. 13, 吉田浩史;
同, 1 ♀, 2001. VIII. 25, 吉田浩史.

京都府 RDB (京都府, 2015) において絶滅危惧種に選定されている.

国内では本州, 四国, 九州, 大隅諸島, 海外では極東ロシア, 中国, 台湾, 朝鮮半島に分布し, 成虫は5月下旬~10月に出現する(多田内・村尾, 2014). ツリフネソウやハウセンカ等を訪花する. 営巣行動などはほとんど不明. 京都府では近年ほとんど確認されておらず, 絶滅が危惧されている(京都府, 2015). 別名スジボソコシブトハナバチ.

神戸市藍那では農地周辺で多くの個体が見られたが, 現在その場所は立ち入り禁止となっており, 現状不明.

Thyreus decorus (Smith, 1852)

ナミルリモンハナバチ

北区山田町藍那, 250m, 1 ♀, 1997. VIII. 17, 吉田浩史.

環境省の第4次 RL (環境省, 2012) において情報不足に, 神戸市(神戸市, 2010) においてDランクに選定されている. 近畿地方では他に, 京都府 RDB (京都府, 2015) において絶滅危惧種に選定されている.

国内では本州, 四国, 九州, 大隅諸島, 海外では極東ロシア, 中国, 台湾, 朝鮮半島, 東南アジアに分布する. 成虫は7~10月に出現し, スジボソコシブトハナバチに労働寄生すると考えられている(多田内・村尾, 2014). 別名ルリモンハナバチ.

神戸市藍那では, 寄主とされるスジボソコシブトハナバチと同様に農地周辺で比較的多くの個体が見られたが, 現在その場所は立ち入り禁止となっており, 現状不明.

Bombus diversus diversus Smith, 1869

トラマルハナバチ

六甲山(八木ら, 2002); 北区山田町藍那, 250m, 1 ex., 1999. VIII. 22, 吉田浩史.

近畿地方では, 京都府 RDB (京都府, 2015) において準絶滅危惧種に選定されている.

国内では本州, 四国, 九州, 対馬および利尻島, 礼文島に分布する(北海道には別亜種が分布)(木野田ら, 2013). 成虫は4月下旬~11月上旬に活動する. 地中のノネズミ類の巣穴を利用して営巣する. 平地では同属のクロマルハナバチよりはるかに普通にいるマルハナバチであったが, 近年その個体数はどこでも激減している. 原因は不明. 成虫の活動期間が長期にわたるので, その営巣活動の継続のために多くの開花植物が提供されるという条件が必要である(京都府, 2015).

参考・引用文献

- 福井県, 2002. 福井県の絶滅のおそれのある野生動物(動物編), 243pp. 福井県福祉環境部自然保護課.
- 兵庫県, 2012. 兵庫の貴重な自然—兵庫県版レッドリスト 2012 (昆虫類). (<http://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2012/>)
- 環境省, 2012. 第4次レッドリストの公表について. (<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619>)
- 木野田君公・高見澤今朝雄・伊藤誠夫, 2013. 日本産マルハナバチ図鑑. 191pp. 北海道大学出版会.
- 神戸市, 2010. 神戸の希少な野生動植物—神戸版レッドデータ 2010—. (http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/environmental/tayosei/red_data_top.html)
- 京都府, 2002. 京都府レッドデータブック 2002, 上, 野生動物編: 935pp. 京都府文化環境部自然環境保全課.
- 京都府, 2015. 京都府レッドデータブック 2015. 京都府環境部自然環境保全課 (<http://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/index.html>).
- 前藤薫, 2008. コマユバチ科. 平嶋義宏・森本桂(監修), 新訂原色昆虫大図鑑 III: 514-519. 北隆館, 東京.
- 三重県, 2006. 三重県レッドデータブック 2005 動物. 498pp. 編集/三重県環境森林部自然環境室, 発行/(財)三重県環境保全事業団.
- 三重県, 2015. 三重県レッドデータブック 2015~三重県の絶滅のおそれのある野生生物~. 757pp. 三重県農林水産部みどり共生推進課.
- 岡山県, 2009. 岡山県版レッドデータブック 2009—絶滅のおそれのある野生生物—. 416pp. 岡山県.
- 大阪府, 2014. 大阪府における保護上重要な野生生物レッドリスト. 環境農林水産部みどり推進室みどり企画課 総務・自然環境グループ. (<http://www.pref.osaka.lg.jp/midori/tayouseipartner/redlist.html>).
- 滋賀県, 2011. 滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県版レッドデータブック 2010 年版—. 583pp. 編集 滋賀県生きもの総合調査委員会, 発行 滋賀県自然環境保全課, 発売 サンライズ出版.
- 島根県, 2014. 改訂しまねレッドデータブック 2014 動物編~島根県の絶滅の恐れのある野生動物~. 318pp. 島根県環境生活部自然環境課.
- 清水晃, 2008. クモバチ科. 平嶋義宏・森本桂(監修), 新訂原色昆虫大図鑑 III: 563-573. 北隆館, 東京.
- 田島暎久・大草伸治, 2007. ハグロフタオビドロバチの新産地. つねきばち, (12): 15-16.
- 多々内修・村尾竜起, 2014. 日本産ハナバチ図鑑. 479pp. 文一総合出版.

- 寺山守, 2006. 日本産有剣膜翅類検索表 6. ドロバチモドキ科 (Nyssonidae) の検索表. つねきばち, (10): 1-27.
- 寺山守, 2008. 日本産有剣膜翅類検索表 8. ギングチバチ科 (Crabronidae) ケラトリバチ亜科 (Larrinae) ケラトリバチ族 (Larrini) の種の検索表. つねきばち, (14): 1-22.
- 寺山守・田埜正, 2006. 日本産有剣膜翅類検索表 5. セナガアナバチ科 (Ampulicidae), アナバチ科 (Sphecidae) の検索. つねきばち, (7): 1-17.
- 寺山守・久保田敏・江口克之, 2014. 日本産アリ類図鑑. 278pp. 朝倉書店.
- 和歌山県, 2012. 保全上重要なわかやまの自然—和歌山県レッドデータブック— [2012年改訂版]. 442pp. 和歌山県環境生活部環境政策局 環境生活総務課自然環境室.
- 山口県, 2002. レッドデータブックやまぐち 山口県の絶滅のおそれのある野生生物. 513pp. 山口県野生生物保全対策検討委員会, 山口県環境生活部自然保護課.
- 山根正気, 2008. スズメバチ科. 平嶋義宏・森本桂 (監修), 新訂原色昆虫大図鑑 III: 547-554. 北隆館, 東京.
- 山根正気・幾留秀一・寺山守, 1999. 南西諸島産有剣ハチ・アリ類検索図説. 381pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- 吉田浩史, 2002. 神戸市北区藍那のハチ類相 (2) 有剣類. きべりはむし, 30(2): 44-45.
- 吉田浩史・松本吏樹郎, 2002. ハグロフタオビドロバチの近畿地方における記録. Nature Study, 48(2): 8.
- 吉田浩史・八木剛, 2012. 兵庫県の注目すべき双翅目. きべりはむし, 34(2): 12-25.